

ほほ月刊 んだもしたん

(諸県弁の「まあどつした事でしょう」)

発行 有限会社ナツプ
編集責任 中田 等
発行日 平成三十年七月
問合せ先 〇九八五五一七四〇九

日光東照宮に行ったよ

今年の6月7日に日本屋外広告業団体連合会総会が東京渋谷区で行われました。全国から600名の会員が集い交流を深め、親睦会にはお笑い芸人のナイツとアントキノ猪木が会場を盛り上げました。



その翌日、式典後の観光ツアーが連合会で組まれていましたが、私(妻+娘)は独自で日光東照宮に行くことにしました。新宿から約2時間の旅です、駅で買ったツマミでビールを飲みながらだと丁度良い移動時間(JR片道約4000円) バスに乗り換えて約10分表参道バス停で下車しあとは徒歩で坂道を登って行きます。恥ずかしながら私は日光東照宮が徳川家康を祀っている神社とココで初めて知りました? 有名な三猿や眠り猫などの彫刻、陽明門・唐門・回廊などの社殿が見と



ころいっぱいでしたが、のぼり道と急階段も多いです。その後華厳の滝に行きました。表参道バス停からあの有名ないろは坂を登る事約40分で到着、入場料を払いエレベータ(往復550円)で降りて下りトンネルを抜けて滝を見学、中禅寺湖の水が、高さ97メートルの崖壁を一気に落下する壮大な滝です。外国人観光客が多く来ていましたので、日本の観光客増加を実感出来ました。柵下の木には帽子が多く落ちていましたよ、係員さんが釣り竿で帽子取る準備を目撃しました(笑) 今回の日光は日帰りの駆け足観光になりましたので、次回は日光に一泊したいと思います。それから、今回も家族の絆を確認できた良い旅となりました!有難うございました。(等)

マイフェイバリットドリンク

暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか? 最近の暑さをしのぐマイフェイバリットドリンクは...水出しコーヒーです! 最高にうまいと思います。最近この水出しコーヒーがブームみたいですね!どこのコーヒーショップにいてもあります。昔からあったのですが、そこまで脚光を浴びてなかったはず。

水出しコーヒーと普通のアイスコーヒーの違いは、豆の抽出方法が違います。水で5時間〜8時間かけて抽出するのでいろんなメリットがあります。お湯で抽出したコーヒーより雑味がなくスッキリとしていて飲みやすいのが特徴です。コーヒー本来のコクが際立っていて、まろやかな味わいです。お湯で抽出しないので味に酸味が出ないのが特徴です。コーヒーの酸味が苦手な人は水出しコーヒーの方がおいしく感じられると思います。同じく苦み成分のタンニンもお湯で入れたコーヒーよりも少なくなるので、酸味や苦みの少ない味になります。これがまた、ケーキと相性がいいんです!(痩せる気は常にある!) さああなたも今年の夏は水出しコーヒーレッツトライ!

(光)

ラン子野郎 見参!

「トロトロ豚軟骨チャーシューが旨いの巻」

2015年に清武町から木花に行く県道338号線沿いにオープンしたラーメン屋さんが有ります。名前は「神楽ラーメン」と言います。



日曜日の昼食に何処かに行こうという事になり、当初、恒久の焼肉なんざんに行ったのですが、店の外まで待っている人がいる状態にびっくり。あきらめて、清武に帰る途中に「神楽ラーメン」を思い出し、宮大方面に向かいました。ここのお店では、トロトロ豚軟骨チャーシューが旨いと聞いていたので、しょうゆチャーシュー麺850円(税別)とみそチャーシュー麺950円(税別)、それと、チャーシュー丼を注文しました。特徴は、やはり、ラーメンの上にドドンと乗っているチャーシューです。豚軟骨がトロトロになるまで煮込んであって、これをチャーシューと呼ぶのかどうかかわりませんが、宮崎ではあまり

見たことありません。そして、その他の特徴は水菜が乗っていることです。また、みそチャーシュー麺にはコーンもタップリ盛られています。



以前の食ハログを見てみると、煮卵が固い状態だったらしいですが、現在は良い色に仕上がっています。好みが分かれると思いますが、自分には、しょうゆチャーシュー麺のほうが合っていると思います。豚軟骨チャーシュー麺を食べながら、豚軟骨チャーシュー丼を頼張るといふ何とも贅沢なローテーションが繰り返されました。食へ進んでいくと、さすがにサッパリした物が食べたという衝動に駆られ、ふと、壁のメニューに目をやると、特製神楽プリン100円と言う文字を発見!頼もうとしたところ、先客の学生グループに「サービスの神楽プリンです。」との事。どうやら、お昼は、サービスで神楽プリンが付くようです。



こつてり、トロトロのチャーシュー麺にお口直しのプリンを食べ、幸せなお昼を過ごしたのでした。(大)

花を訪ねて！ ② アジサイ



六月の花と言えば、あじさいですね。梅雨の晴れ間に山之口町にある「あじさい公園」に行ってきました。公園は、標高210mの高台にあり、21種二万八千本のあじさいが植えられているそうです。日曜日の昼頃に行ったのですが、思ったよりも車が少なくスムーズに公園まで行きました。公園の下から階段を登って上がるのはちょっときつかったです。

あじさいの花は、ちょうど見頃になっていました。花びらはすれてもいなくて大変綺麗でした。色もブルーのグラデーションやピンク、赤、紫、クリーム色や純白等が有り感激しました。公園には、遊具があり子供も楽しめます。また、高台の頂上には、旧島津藩の出城「松尾城」をイメージした15mの展望台があり、眼前の霧島連山とともに都城盆地を一望することが出来ます。雄大な景色と山々の新緑に、心が洗われました。この公園はハナショウブも見頃をむかえていました。また、石を並べて大小10の滝を作った池もありましたが、残念ながら水が流れていなくて空池でした。外国人の観光客も多かったです。来年は、ぜひ花見に行かれたらどうでしょうか。

その後、鹿児島県の曾於市の「溝ノ口洞穴」に行きました。この洞穴は、アイドルの『ももクロ』が、ライブに使用する映像撮影に訪れたことで、有名になり観光客も増えたそうです。霧島山系の湧き水が浸食し、数



千年の長い年月をかけて作られたといわれる洞穴は、横13・8m、高さ8.6m、全長224mあります。一番広い部分は、幅が40mで天井は、アーチ状になっています。内部には湧き水で出来た清らかな小川も流れています。最近では、パワースポットとして注目されているほか、観光客が増えて、洞穴内の落書きが多くなって困っているとの事です。県の天然記念物に指定されているのに残念ですね。

中に入ると真っ暗で、足元がデコボコして歩くのがおぼつかなくなりました。たまたま、一緒になった観光客が、今にも消えてしまいそうな懐中電灯があったので中に入りましたが、それでも暗くて洞穴の全景がわかりませんでした。空気はひんやり涼しく気持ちがいいのですが、灯りが無いと漆黒の闇につつまれて恐怖心を覚えました。これは生まれて初めての体験でした。もし、行かれるなら必ず懐中電灯を忘れずにお持ちください。帰りは関之尾の滝でテイカズラの可憐な白い花と早水公園で菩提樹と泰山木の香りの良い大きな花を見る事が出来た花旅でした。

(百)

いんちきクワイマーが行く！ 「宮崎の山小屋あれこれ」編

ドラマなどで、よく逃避行の主人公が、山小屋で孤独に暖をとるシーンなんかがありませぬ。じっと炎を見つめて、家族や恋人との回想シーン…みたいな。山といえば山小屋というイメージは一般的なのかも知れません。現実には、寝袋も持たないで山小屋に泊まったら、即天国にいつちゃいます。すきま風、雨漏り、ネズミ、蛇…、ほほ屋外状態と変わりないのですが。

とはいえ、山小屋は何気にテンションが上がります。自然の中に人工物が建っていると、ほっとしますし、疲れてなくてもつい立ち寄って休憩したくなるのです。そんな山小屋を、ご紹介しましょう。

① 大分との県境に屹立する当県の最高峰、祖母山には九合目から無人小屋(縦走路の基地になります。いに大切に扱われます。トイレは水洗なのだ。皆から愛されています。)

② 祖母山のお隣の傾山には、九折越小屋があります。水場は200mほど谷へ下ります。鹿の天国で、まったく逃げません。広い草原になっており、テントも張り放題です。小屋はそれなりに傷んでいます。

③ 九州最後の秘境といわれる大崩山。そこには立派な大崩山荘という小屋があります。いつも綺麗に掃除されており気持ちよい所です。登山口からそれほど離れていないのでここに泊まることはほとんどないかも。このトイレは紙は別に捨てないとダメですよ。

④ 西米良村と熊本県との境にある市房山。上米良方面から上ると六合目に作業小屋があります。最近立て直しされて、それはきれいになりました。泊まるというより休憩する場所です。トイレもきれいです。

⑤ 宮崎市加江田溪谷の双石山。標高の低い山には不相応なくらい立派な小屋。囲炉裏があるので、調理もオーケー。二階建てで、宮崎市街を一望できます。難は水場がなく、トイレもない事でしょうか。小屋でポツンと一人で過ごすのは、贅沢な時間です。コーヒを淹れて一服するのは至福の時です。逆にぎゅうぎゅう込み合った小屋に入った時は、もう寝る以外ないです。そしてイビキ合戦がはじまります。屋久島で婦人のグループから寝られなかったとチャクリと言われたから、もっぱら一人テントの人となりました。まあ気楽ですが。(賢)



編集後記

先日、私用で沖繩に行く事になったのですが、ちょうど梅雨の真っ盛りで多少の心配をしながら朝9時の沖繩行きの飛行機に乗りました。機内アナウンスでは、途中、気流の悪いところを通過しますので、シートベルト着用が指示が継続する事がありますのでお手洗い早めにお済ませ下さいとの事。ところが、沖繩に着いたら、多少、雲はあるものの、天気が良く宮崎の気候で言うところ8月のお盆くらいのような暑さでした。街なかには外国人が非常に多く、いろんな国の言葉が飛び交い、場所によっては異国の雰囲気があります。宮崎も観光産業を盛り上げていこうという動きがあります。南国ムードで勝負しても沖繩には負けそうな気がしますが、パワースポットの高千穂を中心とした神話と、キャンプ地などのスポーツはかなりの有名だと思つので、あともうひとつくらい全国にアピール出来るものがないだろうか？と考えさせられた三日間で

(大)